

【総評】

◆評価機関総合コメント

本事業所は、百舌鳥支援学校を母体として親・支援学校・行政・後援会の協力のもとで50年前に設立された歴史のある施設である。よって、理事長にも50年間の歴史を大切に思い、その歴史をけがしてはならない、という気概が感じられた。

当事業所の理念は「障がい者や社会的に支援が必要な人たちに自己決定する力をつけ、地域で安心して自分らしく生活ができるように支援を行う」ことである。パンフレットやHPには「生き抜く力を身につけよう！」という利用者への言葉が記されている。

とくに、本事業所では利用者を尊重し、利用者が自由に意見を言える環境を作るための工夫が随所に見られた。また、管理者でもある理事長のリーダーシップのもと職員会議、ケース会議、職員の個別面談、三者会議（管理者、主任、リーダー）によって職員間のコミュニケーションが密に行われるとともに、利用者との個別面談も定期的に行われるなど、利用者からの意見、相談事にすぐに対応する取り組みも行われていた。

2017年4月に、現在の場所に移転されてきた施設は、まだ新しく、明るく清潔で、利用者にとって使いやすい設計になっている。

◆特に評価の高い点

利用者の尊重と権利の擁護

職員に研修が行われるだけでなく、利用者にも「自分の意思、意見をはっきりと言ってもらいたい」ということを支援を通じて伝えている。また、その訓練にもなる週1回の「勉強会」という、利用者同士、自分の意見を言い合える機会を作っていた。利用者の特性に応じた個別的支援を行い、利用者が1日の自分のスケジュールを把握し管理できるようにする、などの支援を行っていた。

福祉人材の確保と育成、管理者のリーダーシップ

職員には職員会議、個別面談によってさまざまな情報を周知するばかりではなく、意見の聞き取りを行ってサービスの改善、職員の処遇の改善を図っていた。

◆改善を求められる点

中長期の事業計画はあるが、収支計画は具体的には文書化されていなかった。

その他、初心者の職員、入所したての職員、ボランティアにもわかりやすいマニュアルや数値の目標がまだ未整備な部分がある。

事業所はまだ新しく、明るく清潔で、利用者にとって使いやすい設計になっているが、定員に達しないものの、手狭に感じるところがあるようだ。サービス利用を希望しながらお待たせしている利用者もいることもあり、より快適な環境を目指し、将来的にはもう1つの事業所を開設したい、という課題がある。

◆第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

当事業所では、できるだけ透明性のある事業運営を目指し、職員や利用者、利用者家族に、事業所のことをわかりやすく説明したり、意見を求めたりする機会をできるだけ設けるように努力してきた。

しかし、職員間の暗黙の了解でわかっている、とあってマニュアルを作成していなかったり、目標が具体的になっていなかったりして、数値化、文書化ができていない部分があることがわかった。また、それは、従前より事業所内でも課題としてなんとなく気になっていたところでもあった。

今回第三者評価を受けて、改善すべき課題が明確化された、という思いである。次回までにbやcの評価がついている部分を改善し、より良い事業所を目指したい。

一方、利用者ヒアリング等で、今まで力を入れて取り組んでいきたことが評価され、うれしく思っている。

◆第三者評価結果

- 別紙「第三者評価結果」を参照